「まことの光」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　マタイによる福音書１４章２５－３３節

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　森島　牧人　牧師

　今日は、新しい主の年である２０２１年の最初の主日です。この日を私たちにお与えくださった神に、先ず感謝したいと思います。この新しい主の年、神は私たち一人一人に計画を立ててくださっています。それは、神の御業のご計画です。万物の創造主である神は、そのご計画の中でどんな方法でも、また手段でも自由にお用いになれる方です。しかし神は、その大きな御手で直接御業をなさるばかりでなく、私たち小さき者を用いて、御業を行われる方でもあります。

　昨年は、日本だけではなく世界にとっても、厳しく難しい年でした。神のご計画がどのようなものか、どのように進めようとされているのかが分からなくなってしまうことが、何度もありました。それでも私たちは導かれて、主の日に御言葉を聞くために教会に集まり、自身の頭や手の働きを止めて、神の時間（Καιρός）の中に身を置き、神の時計に合わせて自身の歩みを整えて来ました。しかし、世の世にお迎えした主イエス・キリストがお生まれになって既に２０２１年になるこの年ですが、私たちの世界は未だ混乱の中にあります。でも私たちは、主イエスを通して、神が今もご計画を進めておられることを改めて確信し、それに目を向け、主イエスの体なる教会を通してなされる神の御業に、一人一人が用いていただく望みを持ちつつ、主の前に立たなければなりません。

　先回、主は奇跡を起こしてでも、私たちのところへ来てくださる方であることを学びました。つまり暗闇の中に死ぬだけの私たちを救うために、「まことの光」として地上に降り、十字架上で肉を裂き、血を流されたのです。ですから、この主イエスの出来事と、先回聖書から聞いた、湖上を歩くという奇跡を起こしてでも弟子たちのところへ行こうとされる主イエスの出来事とは、まさに同じものなのです。

しかし、今日の聖書では「弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、『幽霊だ』と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。」（マタイ１４：２６）と伝えています。弟子たちは、こんな嵐の中の舟には誰も近づくことは出来ないと思っていたからです。そんな弟子たちに向かって主イエスが言われたのが「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」（同１４：２７）でした。この時の「わたしだ」は、「わたしはいる」と訳すことも出来、神がご自分のことを言い表される時に使われる言葉です。有名なものとしては、神の召命を受けたモーセが、イスラエルの民に神のことをどう伝えたらよいかと問うたのに対して神がお答えになった、「わたしはある。わたしはあるという者だ」（出エジプト３：１４）があります。湖上の主イエスが言われた「神として、師として、あなた方を救う者としてわたしはここにいる。」という言葉は、旧約のモーセに対する神の言葉と同じものでした。

　聖書には、興奮したペトロが、「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」と言い、「来なさい」との主の言葉に従って舟から降り、水の上を歩いて主の方へ進んだとあります（マタイ１４：２８－２９）。主が命じられるなら必ずと、ペトロは信じたのです。この時の「来なさい」という主の言葉、これはまさに私たちがバプテスマを受ける時に聞いた言葉です。「わたしのところへ来なさい」、主にそう言われて私たちは新しい一歩を踏み出したのです。そして、私たち教会は、何年も何十年も経っても、礼拝の度に「わたしについて来なさい。」という主イエスの言葉を聞き、新しい週へ踏み出す力と勇気を与えられて来たのです。

　これは弟子の代表であり、教会の土台とされているペトロの体験したことです。しかし、この体験は私たちにも許されていて、どんな小さな者にも、この素晴らしい体験をすることが出来るのです。

新しい主の年、先ずその一歩を踏み出して行きましょう。この新しい主の年、「来なさい」との主の声に従って先ず一歩を踏み出して行きましょう。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（説教要約　羽入田悦子）